

令和5年

目黒区教育委員会

第23回定例会会議録

(令和5年7月18日開催)

第23回目黒区教育委員会定例会会議録

開催年月日 令和5年7月18日

開催場所 教育委員会室

出席委員	教育委員会教育長	関根義孝
	教育委員会教育長職務代行者	松村真理子
	教育委員会委員	川嶋春奈
	教育委員会委員	片山 覚
	教育委員会委員	若井田正文

出席職員	教育次長	樫本達司
	教育政策課長	濱下正樹
	学校統合推進課長	西原昌典
	学校運営課長	関 真徳
	学校ICT課長	藤原康宏
	学校施設計画課長	岡 英雄
	教育指導課長	寺尾千英
	教育支援課長	山内 孝
	統括指導主事	鈴木将大
	統括指導主事	石邑由紀子
	生涯学習課長	斎藤洋介
	八雲中央図書館長	伊藤信之

書記		小見哲一
		矢吹翔太

(議事日程)

- | | | |
|------|------|--|
| 日程第1 | 協議事項 | 令和6年度使用目黒区立小学校教科用図書の採択について |
| 日程第2 | 報告事項 | 令和5年度目黒区一般会計補正予算(第2号)について |
| 日程第3 | 報告事項 | 令和5年度目黒区教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価(令和4年度分)報告書(素案)について |
| 日程第4 | 報告事項 | 教育委員会名義の使用承認状況について |

(午前9時30分開会)

- 教育長 令和5年第23回目黒区教育委員会定例会を開会します。本日の欠席委員、欠席職員はいません。署名委員は片山委員です。
ただいま、傍聴の申請がありましたのでお諮りします。傍聴を許可したいと思いますが、よろしいでしょうか。

(各委員同意)

- 教育長 それでは、傍聴を許可することとします。
なお、以後傍聴の申請があった場合には、22人までその都度許可することとし、委員の皆様にはお伝えすることはいたしません。
それでは、日程第1を議題とします。

(日程第1 令和6年度使用目黒区立小学校教科用図書の採択について(協議事項))

- 教育指導課長 (資料により説明)
- 教育長 ただいま事務局より説明がありましたが、本日も前回に引き続き、令和6年度から目黒区立小学校で使用する教科用図書について、「調査研究委員会報告書」と「学校調査報告書」を参考に、実際の教科書も見ていただきながら、協議を進めてまいりたいと思います。
資料1の採択日程のとおり、本日は「社会」、「地図」、「算数」、「英語」の4種目について協議します。
8月1日の協議で各種目の候補を1社に絞る予定ですので、発行者数が多い種目については、一定程度の絞り込みを行ってまいりたいと思いますがよろしいでしょうか。

(各委員同意)

- 教育長 それでは、そのようなペースで進めてまいりたいと思います。
なお、前回同様、協議の際に呼ぶ各教科書の発行者名は、お手元の資料2、発行者一覧に記載の「協議用記号」で呼びたいと思いますので、宜しく願います。

- 教育長 「社会」から協議を始めます。「社会」は3社ありますので、この中から本日は2社をあげていただきたいと思います。
- 委員 私は3年生になって初めて社会という教科書を手にした子どもたちが社会を好きになったり、興味が湧くと良いと思ひまして、3年生の最初のページから見比べていきました。
- G社は「ほかの教科などとの関わり」という記載があり、他教科と社会との関わりを一目で把握できるのは良かったと思ひます。その中で、私はH社の「生活科で学んだこと」「3年生で学ぶこと」と記載されているものが、その点では一番分かりやすく感じました。
- 3年生の「工場で働く人や仕事」の部分では、H社は福岡市の、F社は姫路市のそれぞれ食品加工工場を取り上げていましたが、G社は横浜市の食品工場を取り上げていて、目黒区に住んでいる子どもや私たちにとって、身近に感じられる内容だった点が良かったと思ひます。
- G社の6年生の歴史のところの「白黒写真のカラー化」では、52点の写真がカラーとなっており、身近に感じられる写真になっていると思ひました。
- 一方、G社の別の学年のところでは、1970年代や1990年代のものでも白黒写真があり、1992年の子どもがゲームをしている写真が白黒で、その隣には同じ年代でカラー写真もありました。写真が白黒かカラーかで時代を判断することもあるので、同じ年代であれば、そこはカラー写真を見つけて欲しかったと思ひました。
- また、調査研究委員会の報告書では6年生の天下統一の部分で、「徳川家康を含めた3人の武将を一単元としており、学習指導要領の節目と異なる。天下統一については、織田・豊臣の2人について、一単元で扱うほうが好ましい」と記載がありました。それは、F社とH社は、学習指導要領の節目と一致しているということです。どうしてこういう形になっているのか、私はここに引っ掛かりました。
- 結果として一番良いと感じた出版社はH社です。その理由として、他には、5年生の教科書は上と下に分かれていること、6年生は政治・国際編、そして歴史編と分かれていることなどもあります。重いと持ち帰って見ることが出来なくなってしまうの

で、このように分冊になっている点も良いと思いました。

また、アニメのキャラクターも登場しているので、3年生などにとっては、親しみやすい教科書だと感じました。

○委員

社会の教科書はどの出版社のものも素晴らしいと思いました。各教科書には、特徴がそれぞれありましたが、私が一番良いと感じたのはG社です。

それぞれの学年によって特徴があり、3年生では社会で働く人の様子、4年生はやや地域性があり過ぎる内容かと思いましたが、5年生はSDGsに関する内容があり、6年生では「平和の誓い」が最後に記載されており、素晴らしいと思いました。

また、折り込みの「日本列島歴史の旅」ですが、子どもたちが見て、この地方はこんなことがあったんだということが分かりやすくなっており、理解しやすいと思いました。

次にH社ですが、先ほど他の委員からあったように、2冊に分かれています。歴史と政治は本来一緒に学ぶべきものかと思いますが、学校では別々に教わると思います。教科書を片方だけ持つていくのは、魅力的だと感じました。

5年生は、産業を中心として、国土の利用等の部分が素晴らしいと思いますし、3年生や4年生は、仕事の流れが中心で、これも分かりやすくて良かったです。

F社も素晴らしいと思いましたが、5年生の教科書での災害等に関する記載が少し気になりました。

子どもたちには明るい未来を示したいと思っているので、G社、H社の順に推したいと思います。

○委員

社会科の教科書を拝読し、どの教科書も問題解決的な学習をメインに打ち出しており、社会科の教科書も随分変わってきたという印象を受けました。

例えばF社も、学習問題を発見する力、それから解決する力、そして掘り下げる力、よりよい未来をつくる力といった流れになっていますし、G社も、学習問題をつくろう、予想して学習計画を立てようとか、調べる、まとめる、つなげるといった流れになっています。

また、H社も、つかむ、調べる、まとめる、生かすといった形で、学習過程が、非常に問題解決的な学習を意図してつくられているという点では、どの教科書も同じようになっていると思いました。

また、今回の学習指導要領の中で、各教科の見方・考え方ということが打ち出されていますが、F社は、見方・考え方が、空間と時間と関係という3点になっています。G社は、時期や変化、比べる、関連付ける、場所や広がり、工夫や関わり、総合するという6点になっており、それぞれに博士のようなイラストがあり、教科書の中の見方・考え方を示しているといった工夫が見受けられました。

H社では、アニメのキャラクターが、位置や広がり、時間、関わり、比較・分類という4点の見方・考え方を示していました。

この見方・考え方という点から、やや差が出来ているように思いますが、その点ではG社が良いと思いました。

G社では、学びの手引き、それからH社では学びのポイントという項目があります。学びの手引きでは、情報の収集の仕方、それから資料の活用、それから自分の考えを表現する、そういった観点で学びの手引きが出来ている点良かったと思いました。

5年生では様々な産業が出てきますが、G社が扱う産業は、安全性と環境負荷に配慮した取組や、酪農にICTを活用するなど、先進的な取組が多い印象を受けました。

6年生では「国際」の中で、日本とつながりが深い国を扱っていますが、F社は、アメリカ、中華人民共和国、ブラジル、韓国ということで、アジアが2か国入っています。G社は、アメリカ、中華人民共和国、ブラジル、サウジアラビアと、中東諸国が入っています。H社は、アメリカ、中華人民共和国、ブラジル、フランスとなっています。

F社はアジアから2か国をあげていますが、確かに日本と関係の深い国であることは間違いありませんが、もう少し世界に視野を広げても良かったのではないかと思います。また、最近では、中東諸国も重要な地域ですので、この扱いについても、G社が良いのではないかと思います。

最後に1冊か分冊かについてですが、評価が分かれるところかと思えます。最初は分冊も良いと思っていましたが、分冊になっているH社の1冊目の目次を見ると、1番目が政治、2番目が歴史、3番目が国際、つまり、世界の中の日本という順番になっています。この目次どおりの順番で学習すると、使う子どもとしては、最初に政治・国際編の教科書で政治を学び、次に歴史編の教科書に替えて歴史を学び、その後はまた元の教科書を取り

出して国際を学ぶという順になっています。その点に違和感を感じまして、私はG社が良いと思いました。

○委員

私はG社とH社を推したいと思っています。

G社については、各教科書の表紙の裏に、SDGsがまとめられています。SDGs、すなわち持続可能性を重視した考えに基づいた教科書ということで、現代社会にとって、重要なことだと思いました。全体的に、記述、紙面もすっきりしていて、バランスの良い配置だと思いました。

各教科書とも様々な地方が取り上げられており、必ずしも目黒区や、目黒区に近いところではないというものもありますが、東京の子どもたちが、様々な地方のことを学ぶということも意義があるのではないかと思います。

例えば、G社は、4年生で徳島の阿波踊りのことを、かなり紙面を割いて取り上げており、東京にはない地方の文化などについて学べることは、意義のあることだと思いました。

また、6年生の教科書の中で、人権問題を考える上で重要なハンセン病やアイヌ民族のことも取り上げていることは評価出来ると思いました。他の教科書でもアイヌ民族のことを取り上げているものはありましたが、ハンセン病と二つ取り上げているところを評価しました。さらに、歴史の年表が使いやすいことや写真がカラーで見やすいといったことも好印象を受けました。

H社は、アニメのキャラクターを使っており、好みは分かれるところかと思いますが、子どもにとって興味を引く工夫がされていると思いました。

2分冊になっていることについては、分冊になっているほうが重さや運びやすさの点等から良いのではないかと思います。

また、「まとめ」や「調べる」というコーナーが、子どもたちに様々なことを考えさせることが出来て良いのではないかと思います。

F社は、全体的には社会の教科書として十分な内容と構成を持っている教科書だと感じました。ただし、気になった点は、地方のことを取り上げること自体は良いと思いますが、最初の3年生の冒頭から、一地方のことを固有名詞を出して具体的に検討しているということが気になりました。

どうしてここを検討しているのかという疑問が出てしまうの

で、最初は抽象的な社会の問題を取り上げるというやり方のほうが良いと思います。

細かい点ですが、法律的な観点から見て記述が不正確な部分があると思いました。例えば、憲法の基本的人権の定義についても、F社だけが少し違った定義をしており、基本的人権というよりも、人権の中の幸福追求権の定義が使われているのではないかという疑問を持ちました。

また、政治の部分で、国会に対応するのは地方議会だと思いましたが、そこに地方自治体という言葉が入っています。地方自治体というのであれば、対応するのは国ではないか、そういった細かい部分が若干気になったので、F社を除いて、G社とH社を選びたいと思いました。

○教育長

私はG社とH社を選びました。

G社ですが、一言で言うと写真が厳選されており、訴える力を持った写真が適度な大きさにポイントを押さえたキャプションとともに、比較的落ち着いたレイアウトの中で使用されているという印象を持ちました。

一例を挙げると、昭和3年の選挙の投票所に、コートを着た一定の身なりをした男性ばかりが列をなす写真が写っています。

一方、それとともに、現代の投票所の風景が並べて掲載されており、これはどういうことか考えましようというような投げかけがされています。

現代のページでは、東日本大震災の被災地に駆け付けた諸外国の救護隊の様子など、子どもたちに時間的にも空間的にも広い視野を持たせられる見せ方がされていると思いました。

また、巻末の見開きページに、広島平和記念式典で毎年読み上げられている「平和の誓い」が掲載されています。子どもたちが平和を考える上で非常に良い資料であるとともに、小学生として、自分たちも発信者たり得るということを実感する上でも、有用だと思いました。

次に、H社についてです。分冊になっていることについては、良い面、悪い面の両面から検討しましたが、子どもたちにとっては扱いやすいのではないかと思います。内容についても、バランスの取れたものになっていると思います。アニメのキャラクターが出ていることについては、低学年には良いと思いますが、高学年にとってはどうなのかと感じました。

F社についてですが、地方自治について触れている、6年生の教科書の中で、足立区の取組を8ページ程度費やして掲載されており、目黒区の子どもたちが自分達の教科書という意識を持ちづらいのではないかと思います。

また、先の大戦の記述の中で、当時の日本軍が相手国を攻撃する場面の写真が4ページにわたって4枚続けて使用されています。戦争の伝え方は難しい部分がありますが、子どもたちの発達段階を考えると、キャプションの記述も含めて、子どもたちに必要以上に負の感情を持たせるような面があるのではないかとこの点を懸念しました。

委員の皆様のご意見を踏まえまして、多くの委員が推された出版社としては、G社とH社ということでよろしいでしょうか。

(各委員同意)

- 教育長 それでは、社会については、G社とH社を残すこととします。
ここで、議事の都合により暫時休憩いたします。

(午前10時から午前10時2分まで 休憩)

- 教育長 休憩前に引き続き協議を再開します。
次は、地図について協議します。地図の発行者は2社ですので、本日は絞り込みは行わず、委員の皆様のご意見、ご感想を伺うのみとして、8月1日の協議で1社に絞りたいと思います。

- 委員 I社は、地図の中に特産品や名所が綺麗に入っており、非常に分かりやすく、子どもたちが覚えるのには良いのではないかと思います。

H社も素晴らしく、図法の書き方なども記載してあり良いと思います。また、好奇心が刺激されるような内容も書いてあり、どちらかを選ぶのは、なかなか難しいと思いました。

- 委員 両社とも、「日本の統計、世界の統計」というページがありますが、その直前までのページ数を見るとH社が82ページ、I社が110ページとなっており、I社のほうがページ数が30ページ程度多くなっています。結果的に何が違うのかというと、詳細な地図が多いということです。例えば、関西地域だと、H社は中国、四国、近畿地方の次は大阪府とその周辺、京都市中心部の

があり、私もそのような気持ちになりながら見ていました。

例えば、56ページの「江戸時代の結びつき」の部分に、徒歩では成人男子の場合、東海道経由だと約14日、中山道経由で約16日、飛脚、継飛脚の場合、東海道経由だと2,3日と、江戸、東京から京都の所要時間が掲載されています。現在は、東海道新幹線のぞみで2時間10分と記載されており、違いにお驚きを感じながら、楽しく見ることができました。

こういった情報は、インターネットで所要時間を検索すると、電車は2時間10分、歩く場合は4日と表示されますが、歩く場合は4日かかるという意味は、休まずに歩いて4日かかるという意味だと、この地図帳を見て気づきました。これは、教科書ならではの良さだと思い、こういった情報が書かれている教科書や地図が良いと思いました。

また、自然災害の部分で、I社では、災害による被害の大きさや恐ろしさなどを記載するだけでなく、その先にある災害対策の工夫や、防災マップ作りなどについて触れている点が良かったと思います。

○教育長

私はI社を推薦します。

地図については、資料編よりも、地図そのものの見やすさという点を見ました。

国内の地図を見たときに、I社は、県境の線が細く、濃く、見やすかったこと、山地と平野との色分けが見やすいこと、さらに、両社とも「首都東京」というページがあり、いずれも目黒区が含まれていますが、I社は目黒区役所などの位置が明示されているので、目黒区の子どもたちにとっては、親しみのある地図と捉えてもらえるのではないかと思います。

以上により、I社の方が良い印象を持ちました。

地図については、8月1日の協議で1社に絞りたいと思います。

ここで、議事の都合により暫時休憩します。

(午前10時12分から午前10時13分まで 休憩)

○教育長

休憩前に引き続き、協議を再開します。

次は、算数について協議をします。算数は全部で6社です。この中から、本日は2社から3社に絞りたいと思います。

○委員

算数の教科書を拝見すると、全体的として、どの会社の教科書も似てきたような印象を受けました。それぞれ工夫されており、同じような方向に収束しているのではないかと思いました。

例えば、授業の流れの中で、どのように扱うことが出来るかという点です。

F社、G社、I社、そしてK社などは、導入課題、次に目当て、そしてまとめという流れになっています。そのほうが分かりやすいと思いました。

H社は、クエスチョンマーク、疑問符と、びっくりマーク、感嘆符の数とその組み合わせによって問題をつかむとか、話し合っ
て深めるとか、振りかえってまとめるとか、広げて考えるということを示すようになっていますが、率直に言うと、分かりづらい印象を受けました。

また、今回の学習指導要領で新たに強調されている見方・考え方については、今回の学習指導要領の改訂以前から、数学的な考え方が重要だということが言われていました。

F社は、見方・考え方について、共通点を探してまとめるとか、広げて考えるとか、決まりを見つけるというような記述があります。G社は、数か所に見方・考え方を深めようというページがあり、H社も、ところどころに繋がる見方という記載があります。I社については、9つの考え方モンスターという、数学的な見方・考え方をキャラクターで表しながら、明示しています。モンスターという言葉に違和感は覚えましたが、見方・考え方を詳細に記述しているという点では、I社が一番多いと感じました。

J社は、4つの見方・考え方、数学的に言えば演繹、帰納、類推、発展となりますが、例えば、発展では、広げるというような表現で、4つの見方・考え方を述べています。それを巻頭に集めていて、教科書の中では、その見方・考え方については、巻頭の説明を見れば分かるように導かれています。

K社については、単元の終わりに「つないでいこう算数の目、大切な見方・考え方」としてまとめている形になっています。

見方・考え方という点で考えると、今回、あまり差のない教科書の中では、私はI社の取組がかなり光っていたと思いました。

また、協働的な学びのためのページ設定や、プログラミングのページ設定などは、どの教科書にも掲載されています。

細かい点では、6年生の扱いが異なっており、例えばF社はデータの調べ方という単元で、プロブレム・問題発見、プラン・計画、それからデータ収集、アナリティクス・解析、コンクルージョン・結論という形で、進め方が掲載されており、面白いと思いました。

G社は、巻末に数学への扉があったり、未来への扉で「お仕事インタビュー」というものがあり、これは数学がどのように使われているのかを知る上で面白かったです。

それから、I社の教科書に別冊として付いている「中学校への架け橋」が、まとまっているもので良いと思いました。また、デジタルコンテンツの利用という点では、どの教科書も工夫されていますが、K社がデジタルのDを表示して、デジタルコンテンツの利用を促しているという点は良かったと思います。他の教科書は二次元コードで表しています。そのような印象の中で選ぶと、私はI社とF社が良いと思いました。更に1社選ぶとしたらK社です。

○委員

6社とも、学習の全体的な流れや印象等、あまり差がないと感じました。

私は、算数を初めて学習する1年生と、卒業して中学校に進学する6年生を中心に検討しました。結論として、I社、K社、G社の3社が他3社と比較して使いやすく、優れているのではないかと思います。

I社は、1年生の教科書を上下巻に分けていますが、上巻は一目で見て算数的なひらめきを持てるかということを中心とした問題と感じました。一方、下巻は文章で論理的に考えて算数の問題を解くというような使い分けがされているように感じ、1年生の導入として適切だと思いました。末尾には、立体的な思考を養う教材が多く使用されていることも、立体的な考え方を小さい頃から身に付けるという意味では、有益な教材ではないかと思いました。

次に、6年生の教科書についてですが、様々な課題について、文章だけではなく、様々な人物のキャラクターが、会話のキャッチボールをしながら勉強の進め方をしている部分が、児童にとって親しみやすく、読みやすいと感じました。また、大事な部分が色付けされているところも、学習する上で分かりやすいと感じました。「できるようになったこと」という表題のついた練習

問題のコーナーがある点も使いやすいと感じ、好印象を持ちました。

次にK社ですが、1年生は別冊と本誌の構成になっています。

別冊は、小学校に入ったばかりの子どもたちが使用するのに適した可愛らしい内容になっており、数字に慣れて、これから算数を勉強しようという導入としては使いやすい本だと思いました。本誌についても、文章で様々な導入をしていますが、それも分かりやすい内容になっていると感じました。

6年生については、全体的にオーソドックスな記述だと思いましたが、問題数も多く、練習が沢山出来るという意味でも良いのではないかと思いました。こちらも解き方の説明が、キャラクターの会話によって解説されている点が、先ほどのI社と同様に、児童にとって親しみやすいのではないかと思いました。

6年生の最後に「算数卒業旅行」というタイトルで中学校への入門、導入の記載があることも、中学生になったら算数から数学に段階を上げていくことを児童に意識させるという意味でも、有意義ではないかと思いました。

次に、G社ですが、「1年生のスタートブック」が児童にとって使いやすいのではないかと思います。問題数も適度な数があり、問題を沢山こなすことは有意義ですので、良いと思いました。

6年生の教科書についても、まとまった練習問題が相当数掲載されており、復習するのに有益だと思いました。

最後に、H社について、5・6年生が分冊になっていませんが、これは重さや運びやすさの点で疑問に感じました。

○委員

私は、K社とH社です。

K社で良いと感じたのは「1年生のスタートブック」です。大きくて見やすく、書きやすいと思いました。また、キャラクターの吹き出しに「同じように考えると、それなら」という表現がありますが、子どもが見たときに分かりやすいと思いました。

「私と算数」では、スポーツ選手や宇宙飛行士の方が登場して、算数は身近にあるといった内容の文章が掲載されており、K社が良いと思いました。

二次元コードから開くと、指でタップすれば数字を入れられて、計算問題もそれで答え合わせが出来ることは凄いいましたが、最近の子どもを見ていると、文字を書く機会が少なくなることを非常に心配しているので、タップして正誤を回答する

ことには不安を感じました。

またH社は、学校調査報告書では「アジロ綴じで開きやすい」「丈夫」「軽量の紙」等の意見があがっており、開きやすい教科書は非常に良いと思いました。表紙の算数アニメについては二次元コードが付いていますが、実際に見てみると、子どもに人気のある教育系のテレビ番組を作っている会社の映像で、非常に楽しかったです。教科書が届いたときに見るのが楽しみになる人も多いのではないかと、教科書自体に愛着が湧くようになるのではないかと感じました。イラストなども優しい色となっており、非常に見やすいと感じました。

他社で気になったことを2点お伝えします。

まず、I社の表紙が気になりました。12冊のうち7冊が食べ物を使ったものとなっていますが、食べ物を大切にしたいという気持ちからは少し外れた表紙のデザインだと感じ、この教科書を子どもたちに持たせることは気が引けると感じました。

なお、K社も、コンパスの刺さったケーキなどが掲載されていましたが、パティシエの方が全て食べられるもので作ったとのことだったため、これは良いと思いました。

最後に、計算問題に出てくる文房具の価格が現実の価格と違うと感じました。教科書の中では、引き算をすること、分かりやすくすることが目的だと思いますが、本当の価格を知らない子どもたちも多いと思います。引き算の勉強を一番に考えての構成だと思いますが、実際の価格と揃っていると良いと思いました。

○委員

算数の教科書は、内容はいずれの社も似ていると思いましたが、最初に算数が楽しいものであるということを感じられると算数嫌いにならないと思うので、そういった観点から選ばせていただきました。その結果、F社、I社、K社となりました。

選定の理由ですが、まずF社は、小学校に進学したての子どもが見て、絵も楽しく、すぐ内容に入っていけるようなスタートブックが良いと思いました。

I社は、算数を優しく、楽しく解説しようとする工夫が素晴らしいと思いました。

K社は、大きさから数への概念に導入していく努力があり、素晴らしいと思いました。

○教育長

私も、各社似ているという印象を受けました。

資料記載の順番で言いますと、K社、I社、G社を調査研究委員会や学校調査報告書を確認しながら選びました。

各社とも、各単元の始まりのページがあり、その一つ前にその単元のための準備学習のページという構成になっていますが、各社毎に見やすさや見づらさがあるという印象を受けました。

まずK社については、3年生以上の教科書では、表紙の作者に算数を語らせ、さらに4年生以上ではいわゆる著名人に算数を語らせて、子どもたちの興味を繋いでいくという工夫が感じられました。

冒頭に申し上げた中身の見やすさについては、実際にページを見てみると、レイアウトに難があるという印象を受けました。どこからが新しい単元の始まりで、その前のページが準備学習のページなのか単なるコラムなのかが見分けがつけづらいと感じました。また、小見出しが本文のポイントより小さかったり、何のための小見出しなのかと疑問が湧いたりするなど、読んでいて混乱するところがありました。

次に、I社については、K社との比較で言いますと、つくりは同じですが、新しい単元の始まりと、その前の準備学習のページが、見出しの字体やポイント、配色によって非常に分かりやすかったです。加えて、各單元ごとのおさらいや応用のページにも規則性が感じられ、全体の流れが非常にスムーズに頭の中に入ってきたという印象を受けました。

最後にG社ですが、巻頭で教科書の使い方や学習の進め方などが、子どもたちに分かるように丁寧かつコンパクトに記載されています。新しい各単元の導入部のつくりなどは、前2社と比較すると、その3社のうち中位程度かと思いました。

良いと思ったのが、6年生の教科書の巻末で、著名人ではないですが4名の社会人に登場してもらい、今の仕事と算数や数学とのつながりを述べてもらっているところです。

高学年になると、算数を一体何のために勉強するのか、何の役に立つのかなどという疑問が湧いてくる年齢になるので、こういった具体的な話を聞いて、算数、そして数学への興味を繋げる、更に高めていくという点で、良いページだと思いました。

一通り委員の皆さんにご意見を頂きましたが、K社は全員が推しています。次に多かったのがI社です。また、G社かF社ということですが、同数ですので、最後に向けてそのまま残して

おきたいと思います。

当初の数よりは1社多くなりましたが、資料記載の順番で言いますと、K社、I社、G社、F社の4社を残したいと思いますがよろしいでしょうか。

(各委員同意)

- 教育長 では、以上の4社を残したいと思います。
議事の都合により暫時休憩します。

(午前10時39分から午前10時42分まで 休憩)

- 教育長 休憩前に引き続き協議を再開します。
次は英語です。英語についても6社あるので、この中から本日は2社から3社に絞ってまいりたいと思います。

- 委員 私は、6社のうちからK社、G社、F社を選びました。
小学校5年生から英語を勉強するということが、まだ理屈で勉強するというよりは、英語そのものを出来る限り母国語のように修得するというのが理想的かなと思います。そのため、子どもが勉強するときに、テキストとしては日本語が無くて全て英語を使用するというのが理想的な気がします。学校で英語だけで進めるということは難しいと思うので、日本語での解説が入るということはやむを得ないとは思いますが、出来る限り英語に多く接して、日本語の解説は少ないほうが良いのではないかとこの観点で見ました。

まずK社の教科書は、冒頭から実用的な会話の文章が出てきて、すぐに使えるような英語を5年生の最初から学べるというところが、先ほど私が申し上げた観点から言うと理想に近いのではないかと思います。

また、別冊としてついているマイピクチャーディクショナリーという薄い冊子ですが、これだけ見ても楽しいですし、英語のボキャブラリーを増やすということに有益なのではないかと思いました。また、登場する人物や地名が英語圏だけでなく、世界各国にわたっていることは、広い国際性を養うことに繋がるのではないかと思います。

また、全体的に記述がすっきりして、レイアウトが見やすいと

ころ、目に優しい色彩となっていること、版は大きいもののあまり重い感じを受けなかったことについても、好印象を受けました。

続いてG社ですが、5年生の目標などが冒頭で表になっているので、これから新たに英語を勉強しようという時に、全体的に今後どういったことを学ぶのかということが分かりやすくなっているところが良いと思いました。

また、教科書に時々英語のキーボードの記載があり、実際のキーボードと同じ形になっています。これは、後々英語をパソコンで入力することなどに向けて、キーボードがあるのは色々な意味で将来に繋がるのではないかと思います。

他には、世界の友達ということで、様々な国を紹介しているので、5年生の裏表紙にもあったかと思いますが、国際性を養うことが出来るものだと感じました。

また、他の教科書にもついていますが、巻末に切り離して学ぶためのカードやピックアップディクショナリーがあり、楽しく学べるのではないかと思います。

ただ、色使いが濃く、目に優しくない点があるような印象を受けました。

続いてF社は、各目次の項目のタイトルが英語になっており、その下に小さく日本語が書いてあるので、どちらかというとな英語を中心に記載がされているという姿勢が見られるかなと思いました。また、こちらの教科書も、冒頭から会話文が出てきており、実用的な英語を学べるものだと思います。

他には、綴じ込みで、世界遺産や世界地図が出てくるところも、国際性を養うという意味では良い情報が盛り込まれているのではないかと思います。

6年生の最後の章で、ヒアリングの練習としても聞けるような英語のまとまった一話のストーリーが掲載されています。2年間英語を勉強してきた成果として、単純な文章を覚えるというだけではなく、一つの話英語で聞けたり、読めたりすると自信になるのではないかと思います。

残りの3社は、どちらかというとな英語を日本語で解説して、日本語の説明を読んで英語を理解するといった印象を受けた部分が多かったため、出来る限り、英語の授業は英語で行うということ優先させて、先程の3社を選ばせていただきました。

○委員

私は、K社、G社、F社が良いと思いました。

K社の別冊になっている、5・6年生で使えるマイピクチャーディクショナリーは非常に楽しく、二次元コードでずっと見ていました。ギョーザの発音など、日本語を英語にした発音等を聴いて、日本語としては正しい発音ではないが、外国の方から何かを聞かれたときに、これを聞いておけば分かるのではないかと思います。楽しく見ていました。

6社とも非常に良い教科書で、どれを選ぶかが非常に難しかったです。5年生のころからこの教科書で学ぶ人たちは英語を話せる人になると思いました。

2番目のG社ですが、G社は5年生で出来るようになること、6年生で出来るようになることが最初に記載されており、その「出来るようになること」という表現が良いと思いました。

巻末についているピクチャーディクショナリーが取り外し可能であることも良いと思いました。

F社は、世界の文化や生活を紹介する動画が非常に興味深かったです。様々な国の人々の生活を見ることが出来て良いと思いました。また、付録として、会話を楽しむフレーズ集があり、自然と会話に使えるようなものが記載されていて、良いと思いました。

○委員

英語の教科書は6社とも一長一短ありますが、どれも素晴らしい教科書で選ぶのが難しいと思いました。その中で、今まで社会や理科などを、色々学んできて、ここから新しい言葉を学ぶというときに、わくわく感が出てくるもの、そういう感覚で選びました。

まずはK社です。これは写真が非常に多くて、子どもたちが実物に接しているような感覚で学ぶことができるので良いと思い、1番として挙げました。また、先程から他の委員の話にもありますマイピクチャーディクショナリーについても素晴らしいと思いました。

また、もう一つ素晴らしいと感じたのはI社です。最初に各国の挨拶の言葉から入っていきます。英語が世界の国の一つという言葉であるということから、挨拶の言葉から教えようとする姿勢に非常に感銘を受けました。このことから、K社とI社を選びました。

○委員

英語という語学を学ぶことにおいては、私は耳から聞くこと

が非常に重要だと思っています。私自身の経験でも、文章を読んで覚えた英文より、何度も繰り返して耳から聞いたほうが記憶に定着して、役に立つと思っています。そういった意味で、英語については、デジタル教科書を目黒区として用意されると思いますが、このデジタルコンテンツが非常に重要だと思っています。

結果的に面白かったのはK社です。読んでいて面白く、思わず引き込まれるものでした。

デジタルコンテンツの観点から言うと、I社については、5年生のユニット1でデジタルコンテンツを見ることが出来ますが、それ以外は「準備中」という表示が出て、見ることは出来ませんでした。唯一、5年生のユニット1で、かろうじてデジタルコンテンツを見ることが出来ましたが、そこでは、ユニット全体の学習ロードマップが出てきましたが、これは教科書に掲載したほうが良いのではないかと思うところもありました。

次に、学習目標とその展開という点で見ると、F社はゴール、それからステップ1、ステップ2、ステップ3、そしてレッツ・リード・アンド・ライトという流れになっています。G社は、ホップとステップ1、ステップ2、それからジャンプと、4段階となっています。また、各4段階の目標も明示されています。

J社は、ゴールを4段階に分けて明示していますが、更に学習の中で、レッツ・ウオッチ・アンド・シンク、次にレッツ・プレイ、それが1から順に繰り返されますが、レッツ・リッスン、レッツ・トライ、そしてまたレッツ・ウオッチ・アンド・シンクに戻るといった流れで、ところどころでアクティビティーが入ってきます。レッツ・ライトなど、細かく、今自分が何をやろうとしているのかが明示されていて良かったと思います。

また、K社は4つの流れになっています。スターティングアウト、導入、ユア・ターン、展開、エンジョイ・コミュニケーション、まとめとオーバー・ザ・ホライズン。この4つの流れになっていて、スターティングアウトのところではゴールが3つ必ず書かれています。これは、伝えよう、伝え合おう、考えようというような内容に合わせてゴールができており、とても分かりやすいですし、ウオッチ・アンド・プランという部分は、自分が言いたいことを考えることが促される場所があるのも良かったです。

また、教科書全体の各単元のストーリー性と言いますか、ユニット1から最後のユニットまでの、またはレッスンまでのストーリー性が高いという点では、J社とK社のストーリー性が高く、非常に面白かったです。

また、K社のオーバー・ザ・ホライズンという部分では、文化探検、日本探検、世界探検といった、単元の内容と離れて日本、世界、それから文化について調べるところがあります。特に面白かったのは日本探検の部分で、日本在住で英語を話す方々が日本を紹介しているという点が、非常に面白かったです。

それから、書く、聞くという点について、各社ともそれぞれ工夫がされています。例えばJ社ではサウンドボックス、K社はサウンド・アンド・レターズ、H社でもサウンド・アンド・レターズがありました。

二次元コードから読み取る学習コンテンツについて、G社のコンテンツは、内容は良いと思いますが、2分以上のものもあり、少し長いと思いました。

別冊のワードブックやマイピクチャーディクショナリーがあるG社、K社、I社も良いと思いました。

そういった中で、私はK社とJ社を推したいと思います。

○教育長

私は、発行者一覧の順番で、K社、H社、G社です。

K社は、他の委員からの話にもあるように、別冊のマイピクチャーディクショナリーが充実しています。ここに記載されている単語を覚えるだけでも、英語が子どもたちの身近なものになることが期待できます。また、教科書本体の二次元コードには、聞き取り、それから外国文化の理解といったことに気が配られており、良いと思いました。

H社は、版は小さいですが、内容を見ると、聞き取りを非常に楽しく気軽にできる工夫がされている点が良いと思いました。また、6年生で外国の方とコミュニケーションを取る場合、日本の紹介をしようという題材を上げています。外国の方とのコミュニケーションを取るに当たって、何よりも日本のことへの理解が大事だということを子どもたちに教える点は良いと思いました。

最後にG社ですが、こちらも版は小さいです。内容としては、単元ごとに短文を書かせるところがあります。英語を書くときの注意点をまとめたページも用意されており、中学校への接続

という視点から良いと思いました。

このことから、K社、H社、G社を選びました。

それでは、一通りご意見を頂きましたが、K社については全ての委員が推されるということで残したいと思います。続いて、G社です。また、3つ残すとしたらF社です。推された方の多い順番として、K社、G社、F社としたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(各委員同意)

- 教育長 それでは、K社、G社、F社としたいと思います。
以上で、本日の教科書採択の協議はこれで終了します。
議事の都合により暫時休憩します。

(午前10時58分から午前11時2分まで 休憩)

- 教育長 休憩前に引き続き会議を開きます。
次に、日程第2を議題とします。

(日程第2 令和5年度目黒区一般会計補正予算(第2号)について(報告事項))

- 教育政策課長 (資料により説明)
- 教育長 この件についてご質問等がありますか。
- 委員 資料3ページの田道小学校の人材派遣(介助員)と資料7ページの学生ボランティア活用事業は、それぞれ何人程度の予定でしょうか。
- 教育支援課長 田道小学校への介助員の派遣については1人です。
- 教育指導課長 学生ボランティア活用事業については、これから募集をかける予定です。一人当たり、交通費程度の報償費と保険料の計上をしています。
- 委員 補正予算そのものに対する質問や意見ではありませんが、資料6ページの学校運営課の補正予算に、小・中学校の電気料金の増があります。秋から冬にかけて、ある小学校の教室で先生が一人で教室全体の電気をつけて仕事をしているのを見ており、省エネルギー、環境負荷の点で気にしているところです。職員室等

で仕事をするよう、教育委員会事務局から学校へ注意喚起をするようお願いします。

○学校運営課長 教育委員会において、節電等の取組について、学校へ周知等を行っているところではありますが、具体的なご指摘を頂きましたので、校長会を通して、改めて周知をしてまいりたいと思います。

○委員 照明についてお伝えしましたが、エアコンについても、一人だけつけている場合もあるので、よろしくをお願いします。

○教育長 ご指摘の点については、これまでも学校には周知しているところですが、それが校内で徹底されていないということかと思えます。再度、校長会等を通じて学校に伝えたいと思います。

○教育長 その他ご質問等がありますか。
特にないようですので、この報告を受けました。
次に、日程第3を議題とします。

(日程第3 令和5年度目黒区教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価(令和4年度分)報告書(素案)について)

○教育政策課長 (資料により説明)

○教育長 この件についてご質問等がありますか。
特にないようですので、この報告を受けました。
次に、日程第4を議題とします。

(日程第4 教育委員会名義の使用承認状況について(報告事項))

○教育政策課長 (資料により説明)

○教育指導課長 (資料により説明)

○生涯学習課長 (資料により説明)

○教育長 この件についてご質問等がありますか。
特にないようですので、この報告を受けました。

○教育長 その他なにかありますか。
特にないようですので、以上で本日の定例会を閉会します。

(午前11時26分閉会)